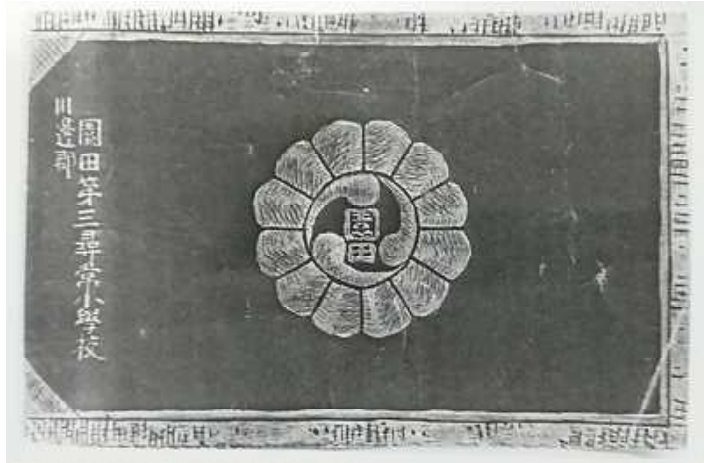


焼かれた校旗

昭和20年8月15日、戦争が終わりました。戦いに負けた日本には、アメリカなどから進駐軍(しんちゆうぐん)が、やって来ました。進駐軍とは、他国の領土(りょうど)に入り、そこにとどまっている軍隊のことです。進駐軍は、戦後の処理として神道(しんとう:神社にまつられている神様を信じる宗教)をなくそうとしました。なぜなら、戦争中、日本は神道を国の宗教として利用し、国民の戦争への参加意識を高めようとしていたからです。進駐軍は、教育の場である学校にも調査に来ました。戦中に行われていた軍国教育(ぐんこくきょういく:「お国のために戦おう」という教育)を断ち切るためです。進駐軍の摘発(てきはつ:見つけてこらしめること)を恐れた吉田校長は、ひそかに校長室の神棚や遥拝所(ようはいじょ:神様をまつってある場所)の鳥居、校旗を焼いて処分したそうです。校旗には伊佐具神社からいただいた「菊と巴(ともえ)の紋章」(もんしょう:マークが入ったデザインのこと)が描かれていたからです。さらには、進駐軍によって剣道の防具なども廃棄(はいき)させられました。学校のシンボルで伊佐具神社から紋章を戴いた校旗を焼かざるを得なかった校長の心の中は、苦しかったにちがいません。

しばらく、校旗がなかった学校ですが、園田村が尼崎市に合併(がっぺい)され、「尼崎市立上坂部小学校」に校名が変わったのを機に、改めて新しく作られました。それが、現在学校にある3代目の校旗です。このように校旗には、様々な事情や人の想いがこめられているのです。



初代校旗「園田第三尋常小学校」昭和11年～



三代目校旗(現在)



二代目校旗「園田第三国民学校」と
長谷川校長 昭和16年～